

中学生の「税についての作文」

大川大木租税教育推進協議会 会長賞

誇れる未来と共存

大木町立大木中学校

三年 北 島 瑞 季

「増税」この言葉を聞くと、あなたはどのように考えるだろうか。大半の人は「税を増やす必要はない」や「もつと国民の生活を苦しめるのか」という否定的な意見、不満が出てくるのではないだろうか。少なくとも私は税について理解するまでは増税、そもそも税があることに對して良いイメージは持てていなかった。増税が続く、少子高齢化の進むこの日本を守るため、私たちには何ができるのだろうか。

まず、税の意義を理解し、使い道を知ることが私たちにできる第一歩だと考える。

税とは、医療が含まれる社会保障・福祉や水道や道路などの社会資本整備、教育や消防などの公共サービス等に使われる「社会のお金」といえるようなものだ。今現在、私たちが普通だと思いいんでいる消防車、救急車の出動費用が無料、義務教育期間の教科書の無償支給などもこの税金が使われている。

これを理解したうえで、税金のない世界を考えてみよう。自分の身の回りで事件、事故犯罪がおきたとする。しかし税金がないので警察は頼ることができない。学校に通おうと思っ

ても教科書は各家庭で準備しないといけないので新たな貧富の差が生じてしまう。町からは植物が消え、ごみだらけとなってしまうのだ。あなたは、このような町、国に住み続けたいと思うだろうか。大好きな場所と誇りを持って言えるだろうか。私はまだ自分だけでは「消費税」しか払ったことがない。大人と違って支払う税金の種類はとても少ない。そんな私はお金がかかっても今を生きる自分たちのため、未来を生きる自分たちのために税金を納める必要があるのではないかと考える。

もう一つ考えてほしいことがある。年金についてだ。年金は自分たちが将来働けなくなったときのためにある。だが今の日本は少子高齢化が進んでいるため社会保障にかかる費用が増加する一方、その費用を負担する働き手が減少している。のちには六十五歳以上の人を私たちはそれぞれ一人ずつ賄っていかなくてはいけなくなるのだ。これから費用をどう負担していくべきか、改めて考えていく必要がある。

私は、税金にはマイナスイメージではなくプラスな面も存在していることが知ることができた。誇ることのできる日本の未来のためたくさんの人に税の理解を深めてほしいと思う。あなたは「税」とどのように共存していくだろうか。